

イセエビ放流技術開発事業 (要約)

増 殖 科 鍋 島 浩

基礎技術開発

1 中間育成技術の確立

(1) プエルルス

採捕したプエルルスが無給餌で飼育したところ6日以内に95.2%が正常に1期稚エビに変態した。

(2) 稚エビ

餌料…アサリ・オキアミ併用区がモイストベレット区に比較して成長が良かった。

密度…1、2期稚エビから約2ヶ月間飼育した結果、生残率は60尾/tで80~90%、120尾/tでは58~65%であった。

成長…個別飼育の場合、早い時期に採捕されたプエルルスはその年(H7)に9回脱皮、翌年(H8)は3回脱皮し、頭胸甲長36.0mm 体重39.6gに成長した。

2 稚エビへの標識方法の検討

10gサイズ以上でアンカータグが有効、しかし、11mmタグでは埋没の可能性有り。

15mmタグでは飼育期間6ヶ月で10gサイズは生残率90%、有標識率86%、20gサイズは生残率90%、有標識率100%であった。

3 標識放流

(1) 稚エビ

頭胸甲長26.3mm、体重17.6gの稚エビ170尾を須崎市池ノ浦地先の水深3mの岩礁域に放流、昼間はほとんど動かず、日没後完全に暗くなってから移動開始、夜間での確認尾数は当日90尾、

翌日35尾、3日後19尾、8日後12尾であった。

外敵生物は夜間に出現した。

(2) 小型エビ

須崎市池ノ浦地先の保護区域に体重100g程度の小型エビを放流、ほとんどが約1年後に500m離れた保護区域との境界付近の一般漁場で再捕された。再捕率は平成6年放流群が13.1%、平成7年放流群13.0%、平成8年放流群1.3%であった。

4 プエルルス、初期稚エビの採捕

2ヶ所で共通コレクターで採捕した。池ノ浦では台風通過後に特に採捕数が多かった。

	プエルルス	初期稚エビ
須崎市池ノ浦 (5.31~10.31)	190	136
窪川町志和 (6.21~10.17)	126	15

5 プエルルス、初期稚エビの生態調査

土佐清水市三崎及び須崎市池ノ浦地先の2ヶ所でプエルルス及び稚エビが比較的集団生息する場所を確認した。確認できた場所は海藻が繁茂し、適当な小孔のある水深3~5mの岩礁域であった。

6 海藻及び底生動物調査

須崎市池ノ浦地先のイセエビ生息密度の高い漁場をはさむ半島を調査したが、植生は貧困で磯焼け状態に近かった。底生動物ではイセエビ餌料となる小型巻貝類の量は問題ないと思われたが、ウニ類が昨年よりさらに多くなり、海藻の少ない原因の一つと考えられた。